

8 学校アクションプラン

令和7年度 高岡工芸高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	基礎学力の定着と互見授業の実施	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上、振り返り学習などが近年の課題となり、本校でも朝学習や基礎力診断テストを行い、基礎学力定着に努めてきた。しかし、家庭学習を行う習慣がついていない、義務教育の範囲が未定着の状態(Dゾーン)の生徒の数は減っていないのが現状である。さらに、その状態で高校の勉強をするため、高校の授業についていけない生徒が増えてきている。色々な場面で、振り返り学習を行う機会を設け、基礎学力の向上や定着につなげる。 学習指導要領が変わり、授業も効果的な学習方法が問われるようになった。タブレットを活用した授業や授業展開、評価など、振り返りが大切だと言われているが、個人の振り返りはあっても意見を交換する場が少ない。 	
達成目標	基礎力診断テストの実施と分析 ・全生徒を対象として定期的に基礎力診断テストを実施する。結果を振り返る時間をつくり、今後の学習計画につなげる ・Dゾーン(義務教育範囲未定着)の割合を30%以下とする	互見授業の実施 ・互見授業週間を年2回設け、意見を交換する場を設ける。 ・校内だけではなく、他校で行われている公開授業の案内も積極的に行う。
	・基礎力診断テストを学期毎に行うことで、学力の定点観測を行い、小さな目標を増やすことで、学習意欲の向上につなげる。 ・朝学習を校時に組み込み、年間を通して学習時間を確保し、家庭学習を行う習慣付けのきっかけとする。 ・D3(Dゾーン中最低評価)だった生徒に対して個別指導を行う。	・互見授業週間を1学期に1回、2学期に1回、計2回設け、公開授業や授業見学を通して、生徒の実態や効果的な学習方法等、気づいたことや感想などを授業担当者に渡すなど、情報共有の機会を設ける。また、タブレットを活用した効果的な学習方法などの意見交換を行う。 ・教師の学び支援事業を活用し、教科指導、生徒指導、進路指導のノウハウを学ぶ機会とする。
方 策	・今年度も数学がD3の生徒を対象に個別指導を行った。参加した生徒は学び直しの良い機会となっていた。 D3補習参加者 1年生 11名 2年生 7名 第2回基礎力診断テストの結果(Dゾーンの生徒) ●1年生 95名/253名(37.5%) ●2年生 105名/239名(43.9%)	・互見授業週間は1学期1回、2学期1回の計2回行い、公開授業142件、授業見学58件行われた。また、各教科研修や学校訪問を活用した公開授業への参加、新採研による公開授業もあり、参加された先生方は、多くの学びの機会となった。
達成度	・朝学習に国語、数学、英語の問題集(義務教育範囲)に取り組んでいる。担任の先生方が取組みの確認を行い、3月に確認テストを行う予定である。 ・数学がD3の生徒を対象とした個別指導を2日間行った。学年、各学科の先生方によるマンツーマン指導が行われ、生徒は一生懸命取り組んでいた。	・今年度は、授業見学の回数が伸び悩んだので、2学期の互見授業週間をもう1週間延ばし、声かけを行った。 ・来年度に学校訪問があることを伝え、意識の向上に努めた。
具体的な取組状況	・昨年度D3補習に参加した生徒の9割は、今年度の補習には参加していなかった。補習中、補習後の生徒の様子は、少し自信が付いた者、達成感や成功体験ができた者、それぞれ良い表情になっていた。しかし、Dゾーンの生徒の割合が40%を超え、目標の30%以下とはならなかった。	B ・思ったより授業見学の回数が伸びなかった。積極的に参加される先生と消極的な先生と二極化してしまった。
評 価	D	B
学校関係者の意見	・基礎学力がDゾーンの生徒が40%を超えていると知り驚いた。保護者はどう感じているのだろうと考えた。先生方で補習を組んで、マンツーマン指導をしていると伺い頭が下がる思いだ。 ・高校を卒業してすぐに社会へ出て行く生徒が多いと思う。学力がすべてではないが、最低限の基礎学力は身につけてほしい。そのためにも、継続した底上げをお願いしたい。 ・達成度の評価が低いからといって、安易に目標設定を変えるべきではない。	
次年度へ向けての課題	・1年生のタブレット端末の運用は、基本2学期からとなる。これに合わせて、朝学習の問題は今年度同様紙のものを使用していく予定である。Dゾーン(義務教育範囲未定着)の割合を少しでも減らすように、学年と情報共有、対策を試算していきたい。 ・授業見学は、自分の授業を見直す良い機会となるので、来年度もアクションプラン目標に挙げていきたい。今年度、参加に消極的だった先生方に参加してもらえるように、時期や期間の見直しの検討が必要となる。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学校生活		
重点課題	モラルやマナーの向上と危険回避能力の育成		
現 状	<p>・SNSは、スマートフォンの普及に伴い、利用マナーやモラルの欠如による事件や事故、いじめに発展するなど多くの危険が潜んでいる。県教育委員会との連携によるネットパトロールの報告、情報提供などを受け、生徒がトラブルに巻き込まれることの未然防止に努めている。しかし、安易にSNSで写真や動画を投稿してしまうことが見受けられ、指導を行うことがある。スマートフォン等の使用におけるモラルやマナーの教育とともに、生徒の危険回避能力の向上に努めていかなければならない。</p> <p>・交通事故件数は、今年度は7件発生した。登校時に自動車と接触する事故が最も多い。幸い大きな事故は起きていないが、命に関わるような重大事故に至ることや、加害者になる可能性がある。命の大切さはもとより、モラル、マナーを高め、生徒自らが危機管理の意識を高めていくよう指導していかなければならない。また、努力義務ではあるがヘルメットの着用など、自分の身を守る認識を高める必要がある。</p>		
達成目標	SNS上の指導件数		登下校時の交通事故件数
	・年間報告件数 5件以下		・発生件数 5件以下
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・集会毎にSNSに関する指導、情報提供 ・「心」の教育、モラルとマナーの指導 ・「いのちの大切さ」を学ぶ教室の実施 ・校風安全委員による対策等検討会の実施 ・個別指導 		<ul style="list-style-type: none"> ・各集会毎に交通安全指導 ・自転車点検による安全意識の向上 ・事故発生時の状況や場所の教室掲示 ・校風安全委員による対策等検討会の実施 ・交通安全教室の実施(1年生) ・個別指導
達 成 度	・報告件数2件(1月末日現在)		・事故件数7件(1月末日現在)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生、保護者への注意喚起(合格者説明会、オリエンテーション) ・始業式、終業式での注意喚起 ・ST時での情報提供 ・個別指導 		<ul style="list-style-type: none"> ・新入生、保護者への注意喚起(合格者説明会、オリエンテーション) ・始業式、終業式での注意喚起 ・自転車カギかけ運動(5月) ・自転車点検による安全意識の向上(5月) ・交通安全教室の実施(1年生 5月) ・ST時での情報提供 ・個別指導
評 価	C	・SNS関係の事案が2件あった。	D ・自転車対自動車7件となっていて昨年度より3件増えており、目標達成されていない。通学中の出会い頭の事故が多い。大きな事故には至ってはいないが継続的な指導を行う必要がある。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の事故について件数が増えていると伺い心配している。 ・毎朝、安全パトロールのために越中中川駅の付近へ行くが、高岡工芸の生徒たちはよく挨拶をしてくれて気持ちがいい。 ・反面、自転車のマナーがよくないと感じる場面があった。右側通行や校門から歩道へ出る際の一旦停止をしないなど事故につながりかねないと感じる。生徒への安全指導に加えてカーブミラーの設置なども検討してほしい。 		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの利用の仕方やマナーについて常時、注意喚起を行う。 ・交通安全については新入生に対してはオリエンテーション、交通安全教室を通してしっかりした知識をつけることや情報提供をして注意喚起を行う。 ・自転車通学生についてはヘルメット着用を推奨する。 ・学期末に注意喚起を行い、学年集会や個別指導など様々な対策を行っていく。 ・生徒会と必要に応じて連携を取りながら、自分のことだと捉えることができるよう取り組みを行っていきたい。 		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	進路支援			
重点課題	よりよい勤労観・職業観を身に付けさせ、主体的に進路を選択し決定できる力を育む。			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が進路決定する過程として、知りたい企業や進学情報をインターネットで調べ、不足があれば進路指導室にきて就職や進学に関する資料を探しにきている。 ・数年前より生徒がタブレットでアクセスできる共有フォルダに「デジタル進路指導室」を設け、受験報告書や求人データなどを必要なときに閲覧できるようにした。進路情報が速やかに収集できるようになったが、進路指導室で対面で指導する機会が減りつつあり、伝えたいこと全てが伝えられないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業の就職選考試験は9月16日より開始され、今年度は約120名が民間企業への就職を希望している。 ・民間企業への就職希望者の第一次選考における不合格者数は、令和6年度:3人、令和5年度:1人、令和4年度:2人、令和3年度:8人、令和2年度:0人、令和元年度:3人であった。 		
達成目標	3学年生徒の進路指導室利用回数、タブレット閲覧回数	就職希望者第一次選考での不合格者数(民間)		
	1000回以上(一人平均4回以上)	2人以内		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた進路指導室を目指して、クラスごとに各資料の置き場所やタブレットでの調べ方などの説明を行う。 ・進路希望先の決定において迷いがある場合には、進路指導室に相談に来るように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各企業が求める人物や適性などの情報を確実に生徒に伝え、意識の向上を図る。 ・適性検査を実施し、その結果より本人の適性、能力について考えさせ、進路選択に生かす。 ・面接時に本人の長所や考えを確実に伝えられるように指導する。 ・多くの先生方から面接指導が受けられるように指導計画を立てる。 		
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導室(タブレット利用含む)延べ利用回数 <ul style="list-style-type: none"> <就職者> 進路指導室 918回(内 タブレット利用797回) <進学者> 進路指導室 317回(内 タブレット利用271回) 合計 1235回(124%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業に107名就職選考試験を受け、一次選考で105名合格。2名不合格。 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年末に進路指導室の利用について、各クラスごとに進路指導室および選択教室にどのような資料があるか、また、その調べ方などのガイダンスを行った。 ・平日頃より生徒への声かけをして、進路について考えさせるようにしている。 ・生徒一人一人にタブレットが支給されており、情報が検索しやすくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一次選考での不合格者数が2名で、目標人数2人以内であった。 ・全国的な県外大手企業や求人数1名の県外企業への挑戦であった。 		
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は進路の選択にあたり、タブレット使用により、タイムリーに進路情報を得ている。また必要に応じて進路指導室を訪問し、担当者と相談をしたり、進路情報の提供を受けている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一次選考での不合格者数が2名であり、目標人数2人の2名以内であった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・進学して県外へ出る生徒たちは将来的に富山県に戻っているのだろうか。地元企業としては、進学しても高岡に帰ってきて就職してほしい。 ・本校だけのデータはないが、県全体のデータでは約50%がUターンやIターンで地元へ就職している。ただし、女性だけの集計では約30%と割合は減っているのが現状である。 			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標を設定するために、早期に必要な資料を収集し、時間をかけて検討するよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスや企業説明会を通して早い段階で明確な進路目標を設定することによる意識付け、取り組み、指導を強化する。 ・2学年における企業説明会への積極的な参加を促す。 		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	特別活動																	
重点課題	学校行事及び部活動の充実																	
現 状	<p>・運動会、尚美展、球技大会などの学校行事の満足度アンケートの結果は、概ね80%を超えている。各行事前にアンケート調査を実施しているが、生徒議会の活動が十分とはいえない。また、各行事において生徒の主体性を伸ばし、更なる活性化を目指すことが重要となってくる。生徒議会を充実させ、生徒会執行部と各委員会の連携を強化していくことが今後の課題である。</p> <p>・部活動等への参加は活発で、昨年度末の特別活動加入率は88%（生徒会を含む）となっている。しかし、中途退部や活動が主体的ではない生徒も一部に見られ、部活動退部者は49名（内32名が部変更）であった。退部者の減少、退部した生徒の転部率を増加させることが課題である。</p>																	
達成目標	主たる行事において満足と回答する生徒の割合	部活動加入率（生徒会含む）																
	85%以上	85%以上																
方 策	<p>・代議員を通じて事前アンケートを実施し、生徒の意見集約に努め、生徒議会の活性化を図る。また、行事ごとにアンケートの実施・集約を行い、満足度を調査するとともに、次年度の活動に生かす。</p> <p>・各行事における教職員の体制を常に検証し、連携の強化と協力体制の維持に努める。</p> <p>・各集会や生徒会による広報活動を通じて、大会日程及び成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒の意欲を高める。</p> <p>・各部の部員数調査を年度当初と年度末に行い、部活動を変更した生徒数を調べ、関係教職員間で状況を共有する。また、各顧問と連携を図りながら、部活動の活性化と充実に努める。</p>																	
達成度	満足(A)+ほぼ満足(B)で評価	部活動加入率																
	<p>・運動会 A31.7%+B60.0%= 91.7% （昨年度 63.1%+34.5%= 97.6%）</p> <p>・尚美展 A63.0%+B33.3%=96.3% （昨年度 58.6% + 37.5%=96.1%）</p> <p>・球技大会A32.1%+B44.9%=77.0% （昨年度 32.1%+ 59.3%=91.4%）</p>	<p>・文化部52.0%+運動部40.9% = 92.9%</p> <table border="1"> <tr> <td>・人数</td> <td>文化部</td> <td>運動部</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>105</td> <td>127</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>117</td> <td>113</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>+12</td> <td>-14</td> <td>※兼部者もいる</td> </tr> </table>		・人数	文化部	運動部		7月	105	127		2月	117	113			+12	-14
・人数	文化部	運動部																
7月	105	127																
2月	117	113																
	+12	-14	※兼部者もいる															
具体的な取組状況	<p>・各行事の内容は、生徒会執行部が内容を精選し、計画を作成した。</p> <p>・行事後にアンケートを実施し、その結果を次年度へ反映させるようにした。</p> <p>・表彰式、壮行会を実施。各部によるHPへの掲載。</p> <p>・desknetsのインフォメーションにて大会成績の報告。</p> <p>・退部した生徒の状況を把握し、他の部活動への入部を促す。</p>																	
評 価	A	<p>・運動会の満足度91.7%（昨年度比-5.9%） 生徒の安全面に配慮し、過去と同様な形での運動会となった。応援合戦も例年以上の盛り上がりを見せ、満足度の高い運動会となった。</p> <p>・尚美展の満足度96.3%（昨年度比+0.2%） 生徒の原案から製作したTシャツを部門毎に着用した。また、2学年による模擬店の数が増加したこともあり、盛り上がりのある尚美展となった。各学科で企画したものづくり体験型イベントや模擬店が大盛況で、生徒たちの満足度を例年通り維持した。</p> <p>・球技大会の満足度77.0%（昨年度比-14.4%） 生徒会執行部が内容を精選し、競技種目を決めて実施した。例年通りの実施だが、工夫が必要。</p>	A	<p>・全体の部活動加入率は高い。</p> <p>・今年度は41名の生徒が退部し、うち40名が新たな部活動に入部した。</p>														
学校関係者の意見	<p>・いろいろな特別活動に取り組まれている。</p> <p>球技大会のように、生徒が主体となって企画・運営をする体験は貴重である。</p> <p>満足度が低かったという話だったが、生徒が原因を分析し、次に運営するときに向けた改善策を検討することが大切だ。うまくいかないことを経験して学ぶことも多いと感じる。</p>																	
次年度へ向けての課題	<p>・各行事の反省点をまとめ、改善点を次年度に反映させる。</p> <p>・職員間の連携を密にし、協力体制を整備する。</p> <p>・生徒の意見をできるだけ反映し、各行事でよりわかりやすく生徒の主体的な活動体制を整備する。</p> <p>・1年生の入部に関しては各部とも協力し、部活動紹介から入部式までの期間に必ず見学することや、十分な説明を受けてから入部の意思を固めるよう指導し、ミスマッチを事前に防ぐ。</p> <p>・退部者の確認とその後の学校生活の充実に図るための面接を充実させる。</p> <p>・女子運動部の活性化。</p>																	

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった）

重点項目	PTA活動の活性化			
重点課題	PTA各委員会とPTA行事の活性化			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA各委員会では、行事等について積極的な議論が行われている。 ・会長、副会長、監査、各委員会副委員長で毎月執行部会を開催している。 ・各委員長、副委員長が中心となり委員会活動を見直し、活性化を図ろうとしている。 ・令和4年度より、PTA総会を土曜日に開催することで、総会の出席率の増加を図っている。 			
達成目標	PTA行事への参加者数(総会除く)	総会の出席者		
	前年度より10%増 (R6年度参加者数:37名)	前年度より10%増 (R6年度出席者数:118名)		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページにPTAページを開設する。 ・PTA通信やホームページを活用して、活動内容を発信していく。 ・一斉メールを利用して、全体での情報共有を推進していく。 ・各委員から行事参加への働きかけを積極的に行う。 ・各委員会において委員長、副委員長が中心となり、より各委員会活動が効率的に進められるよう努める。 			
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度参加者:41名 ほぼ前年度並 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度参加者:136名 前年度より約10%増 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会広報活動(文化・広報委員会) ・尚美展 売店・食堂(執行部) ・PTA通信発行(文化・広報委員会) 1回(デジタル化 ホームページ掲載) 	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日総会開催 		
評 価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尚美展において、各委員会で積極的な取り組み ・PTA通信はデジタル化され、経費削減や委員の負担軽減が図られている 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校側の対策は難しい ・各保護者の意識 		
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・尚美展におけるPTAコーナーでは、食券販売の部門で少し連携ミスがあったが、販売の部門では順調にすすめることができた。結果として売上も伸びたのでよかった。 ・保護者が学校に来る機会があまりない中、課題研究の発表会などに出席することで学科のことや子どものことをより深く知ることができると思う。ぜひ保護者にも周知してほしい。 			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな事業展開の検討 			

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)